広報文芸きくち

菊池短歌会　5月詠草

病棟の暮らしも三(み)月飽みはてて帰る家路に吹く麦の風　竹野美智代

ものを食むさもしきおもて足るを知るまでの春秋時じくの雪　怒留湯健蓉

さらばとて花くずれゆく牡丹の傘たたむなり暮れ残るまま　村上咲江

吟行の阿蘇のいち夜の旅枕寝ぬるに惜しき卯の花月夜　山下菊代

偏愛の椿の一樹さ緑に初夏の日差しを浴びて輝く　山代静子

本を読む我にすり寄る猫一匹甘えさせをり風薫る午後　余語やす子

水温む石うすの中藻草よりメダカ出で入る十匹がほど　岩木妙子

陽のぬくみ匿ふごときれんげ田にはや淡淡夕ぐれは来る　岩永典子

八重椿、花まんだらに散りしきてその下蔭に紅の鮮らし　氏岡百枝

散歩路に生れし短歌(うた)一つ唱へつつ帰り着きたる途端消えたり　梅野かをり

万句の里俳句会　5月句会

紙魚(しみ)のあと古りたる父の愛蔵書　梅田昭子

対岸の土手には多き蛍かな　光本とよいち

きらめけり湖(うみ)に新樹の風渡る　小山照子

夏蝶の羽を畳めば暮近し　田中美智

今年また奥津城で聞く初音かな　吉井綾子

芍薬のあしたに残す蕾かな　丸山美代子

湧水の水とくとくと樟若葉　岩木敬治

だらしなく皮ぬぎ捨てて孟宗山　打出　貞

芍薬の紅のくづれて庭の隅　野中公枝

麦熟る一村囲むごとくして　隈部輝子

外湯へと誘(いざな)ふ如く河鹿(かじか)鳴く　田島房子

久方の遠出なりしよ桐の花　加藤妙子

せせらぎ俳句会　5月例会

小分けして冷凍室に蓬餅　藤本アツ子

国担う男の子強かれと鯉幟　寺本和子

子犬にも首輪に結ぶ菖蒲かな　服部静子

生きよ生きよ草木も虫けらも今春酣わ　村山数恵

棕梠の花粟餅食ひし敗戦時　内村泊虹

饒舌より逃れてどっと花疲れ　藤本邦治

猫見上ぐ燕親子の口移し　五丁義昭

一日の暑さに負けた日焼肌　（高一）渡辺大寿

夏の日をまとともに受けて肌焼いて　（高一）渡辺一史

肥後狂句桜会　例会入選句集より

思いだす　写真でわらいかくる母　小川繁美

はっとして　あわてて襖しめらした　髙倉新米

幸せ過ぎる　被災地に匿名で寄付　須藤新生

空回り　屁理屈ばかり言い合わす　狩野本六

はっとして　バックミラーにパトのおる　光堀善教

そるが人間　欲があるけん騙さるる　藤野清子

空回り　燃える思いの伝わらん　窪田明徳

思いだす　正月に下駄下ろしょった　田中孝幸

そるが人間　ソロバン弾くくせンある　田尻浩風

空回り　世話人だけの出席者　高木房惠

目ざわり　派手な衣装でうろつかす　田中レイ子

目ざわり　禁酒にゃ恐いコマーシャル　上村〇子

広報文芸きくち

泗水短歌会　5月詠草

「祝金婚」役場へと記帳名は美智子肖(あやか)る心地ほのぼの顕たす　福原美智子

病床の夫(つま)のいびきにハッとして毛布かけやる我も年老ゆ　矢野悦子

木陰追い茶の葉摘みゆく八十八夜みかんの花の風に降りくる　高藤タツノ

栗の木に花の様なる姿して山藤垂れる吾が家の横に　長尾はるみ

道の辺の山法師の花純白に襟正すがに凛と咲きをり　中山定子

六階の窓より見下ろす屋根のなみ五月の風に光りかがやく　平嶋きくえ

五月晴れにそよ風吹けばさはに咲き柚子の白花ほろほろ零す　大島きと

一人居は淋しきものよ夜となれば降りしきる小雨心満たさず　宮本峯子

マッサージ機に身を持たせつつはるかなる遠き記憶を辿りゆくなり　増田久美子

肥後狂句水笑会　5月例会

値下げして　そっでん儲けよらすふう　井手水光

年金で　医者のはしごはとても無理　続　義昭

お師匠さん　芸は盗めて言いよらす　吉岡三水

お師匠さん　こそばいかごつおだてらす　神尾迫水

ああ重さ　メタボの旦那うっ倒れ　宮上美由

ああ重さ　去年はこぎゃんなかったが　柏原秉仏

ああ重さ　ちっと減らさにゃ持ちきらん　中島五女

年金で　どぎゃん暮らしのでくるどか　平井紅彩

お師匠さん　敗戦舞踏思い出す　御手洗三代

ああ重さ　お相撲さんにきゃァ嫁り　山隈好茶

旭志文芸俳句会　5月詠草

春雷や夜明け二、三個あがりゆく　郷　ミヤ子

子と孫と足揃いけり春ごたつ　水谷ミネ

残り花浮かべ足湯の心地よさ　東　芳子

手作りの山菜料理水祭り　芹川蓉子

如何に生く桜蕊降る法話かな　中尾ヨシコ

軒雀新居つくりに余念なく　出田みとり

踏み込めば若葉まぶしき雑木山　芹川のり子

七城短歌会　5月詠草

校正に目をば光らせ一字一字脱字余り字見極め追うも　佐々重弘

咲き盛る密柑の香りに包まれる実りの秋に思いを馳する　緒方寛子

初対面の八か月の曽孫胸に抱く至福の笑顔に胸熱くなる　池田カツ子

去年(こぞ)の秋仕舞ひし夏衣探し当つ主(あるじ)を逃れ憩うは今日まで　水田紗陽子

一人居の音無く声無く静かなり尊きしじま月を仰ぎて　堀　甲子

只一本開くに間がある芍薬の蕾に黒蟻群らがりている　岩崎照代

新緑の庭にデイケア介護士の優しくふるまうコーヒーうまし　森　道子

こころ当てに太きを手さぐり昼掘りし馬鈴薯の命夕餉に戴く　高木　精

昼下がり石割りハンマー振りながら戯る蝶の影も叩けり　村上幾雄

数多舞う蛍の一つがわが肩に触れて遠のく逢い来し夫(つま)か　木下陽子

おわびと訂正
広報きくち6月号高齢者大学文芸部で紹介した名前に誤りがありました。正しくは次のとおりです。
誤　山代　鈴子　さん
正　山代　静子　さん
おわびして訂正します。